

よこてレインボーパトロール隊（秋田県）



「あっ！！晴れ劇団」は寸劇で町を守ります

地元業者による 24 時間パトロールと様々な防犯寸劇による啓発活動

1 活動地域の紹介

よこてレインボーパトロール隊が活動している横手市は、秋田県南部の内陸部に位置する人口約 10 万人の都市です。平成 17 年に 1 市 5 町 2 村が合併してできたため、面積は東京 23 区よりも広いのですが、そのほとんどが山林と田んぼの農業を主体とする地域です。

活動の拠点である旧横手市は、横手盆地の中央部に位置し、横手川が市街地の中心を流れる城下町で、冬は積雪が約 2 メートルにもなります。

2 団体の概要

平成 16 年 12 月、旧横手市内の外回りを中心とする業者によって結成されました。私たちの活動する地域は、

岩手県と接する地理的な状況から比較的犯罪の発生が多いこと

健康問題など将来に不安を抱えている高齢者が多く住んでいること

などが問題と考えられたことから、

犯罪予防のためのパトロール活動や広報啓発活動

高齢者を対象とした巡回活動や安否確認

を中心として、犯罪の発生状況や地域の実情に応じて、子どもの保護活動や自殺予活動等

にも取り組んでいます。また、平成 19 年には、女性隊員が中心となり、寸劇等によって犯罪被害の防止を呼びかける「あっ！！晴れ劇団」が活動を開始しました。

3 活動内容

(1) 地元業者による 24 時間パトロール

私たちの団体は、様々な職種・年齢で構成された地元業者による 24 時間パトロールを実施しています。構成員は、牛乳配達員、新聞配達員、ヤクルト販売員、電気・水道検針員、宅配業者、運転代行業者の 7 業種、約 280 人です。活動に必要なジャンパー、腕章、マグネットシート等は、秋田県の支援助成金を活用して購入しました。隊員は、腕章を腕に巻いたり、仕事に使用する車両にマグネットシートを貼付したりして毎日の業務を行っています。それぞれの活動時間帯が、早朝、日中、夜間、深夜と分かれていることや直接自宅を訪問する仕事であることを活用して、ほぼ 24 時間のパトロール活動と高齢者宅等の巡回・安否確認などを行っています。これまでも、早朝に道路に倒れている人を発見したり、深夜、器物損壊の現場を目撃して通報するなど、犯罪の予防・検挙活動等にも寄与しています。ただ、仕事をしながらの活動だけでは、隊員の意識の低下や活動の衰退を招きかねないことから、劇団による広報啓発活動や他の団体と協働したキャンペーン活動等を行い、隊員の士気高揚に努めています。

(2) 様々な防犯寸劇の実施

当隊のセーフティ広報啓発部隊「あっ！！晴れ劇団」は、平成 19 年 4 月、女性隊員 10 名が中心となって発足しました。女性隊員は、元々は、交通安全協会で活動していましたが、秋田県内で発生した児童殺害事件を機に、交通や防犯という垣根を越えて、地域の問題や実情に応じた「分かりやすく、親しみやすい広報」を通して、様々な被害防止活動を行っていきたく考えたのです。これまでも、交通事故防止や盗難防止のためのカギ掛けの促進、子どもの犯罪被害防止、振り込め詐欺被害防止等の寸劇を行ってきましたが、最近では、15 年連続で自殺率全国 1 位となり、秋田県民の大きな懸案事項でもある自殺防止の寸劇にも取り組んでいます。県内各地から公演を依頼され、また、マスコミ等にも取り上げられたことは、地域の方々に対する広報啓発に役立っているだけでなく、劇団員や他の隊員の活動の励みにもなっています。

(3) 他の団体と協働した活動の実施

当隊では、毎年 6 月、9 月に、市町村や農協、生産農家、観光協会等と一緒に農産盗難防止パトロールを実施しています。横手市は、秋田県内でも有数の果樹の産地ですが、サクランボ、ブドウ、リンゴ等の収穫時期に盗難が発生したことから、関係する団体とともにパトロール隊を組織しました。この活動では、生産者へ盗難防止対策の呼びかけ、日中に見せるパトロール活動、夜間・早朝の見回り活動等を行っています。また、2 月には、少年保護育成委員、暴力追放委員等と「かまくら祭り」会場における非行防止、暴力追放キャンペーン、12 月には、飲食店組合等との風俗環境浄化キャンペーン等を実施しています。このような活動も隊員の刺激となり、地域安全への意識を継続させる一助となっています。

4 課題と今後の方針

当隊の活動は、いわゆる仕事をしながらの活動が主体ですが、隊員が日常の工作中に、四六時中、地域安全のことを考えることは非常に難しいことです。当初は、このよう活動に効果があるのかという疑問もありました。しかし、自分たちがパトロール隊の一員であるということを意識さえしていれば、見知らぬ人や困っている人に勇気を持って声をかけたり、不審に思ったことをためらわず警察に連絡することができます。その意識を継続して持ち続けることが、私たちの活動の最も基本となることなのだと考えています。私たちは、毎日の仕事の中で地域安全活動を長く展開するために、これからも「ながらで、長く、気張らずに」という意識で活動していきます。

よこてレインボーパトロール隊（秋田県）

皆さん、こんにちは。

私は、秋田県横手市から参りました「よこてレインボーパトロール隊」の隊長で、牛乳販売をしております藤本堅悦と申します。

同じくよこてレインボーパトロール隊の女性部の部長をしております高橋春子と申します。よろしくお願ひします。

では、これからよこてレインボーパトロール隊の活動を紹介させていただきます。



まちの紹介

はじめに、私たちが活動している横手市について簡単に説明します。

私たちの町は、秋田県の南部に位置する横手市で、平成 17 年に 1 市 5 町 2 村が合併し、現在の人口は 9 月末で約 10 万人、世帯数は 3 万 4,273 世帯の地方都市であります。

その広さは、約 690 平方キロメートルですので、東京 23 区がすっぽり入るくらいの面積がありますが、ほとんどが田園と山地で、農業を主体とする地域でございます。

観光といたしましては、みなさん御存知でしょうか。雪で作るかまくら祭りが毎年 2 月に開催されております。

かまくら祭りは水の神様を祭っており、400 年の歴史があると言われております。祭りでは雪で作られた祠の中から子ども達が「あまえこのみにきてたんせ」（甘酒飲みに来て下さい）と観光客などに甘酒やもちをふるまっております。とても幻想的です。

他には最近 B 級グルメなどで取り上げております、目玉焼きがのった横手やきそばなどが話題になっております。



冬になると、市内の中心部でも雪が 2 メートル位積もりますが、市内の除雪車の運転技術は県内でも折り紙付きで、道路は両端まですっきりと除雪されています。日中は「じじ、ばば」が家の前を一日中雪ベラで寄せていますので、沖縄の人でも雪道をスイスイ歩けます。是非、一度おいで下さい。

団体結成のきっかけ

それでは、当隊が結成されたいきさつなどについてお話ししていきたいと思います。

私たちの団体が結成されたのは、平成 16 年 12 月です。

隊の立ち上げについてはちょっとしたエピソードがあります。私は町の牛乳販売店をやっております、配達もしているのですが、いつも配達している独り暮らしのおばあちゃんがある朝、しみじみとした調子で、「藤本さん、毎日牛乳配達して貰ってるけど、いつまでこうしてられるのかねえ。」と話したのです。

これを聞いて私は、「普段はそんなそぶりは見せないけど、本当はこれからのことに不安を感じているんだなあ。」と思いました。この頃、私は、アパート防犯協会の関係で地元の警察署にも出入りしていましたので、この話を当時の生活安全課の係長さんに話したところ、この係長さんは積極的というか、ノリが良いというか、「藤本さん。だったらボランティアで見まわり隊作って見たら。協力するから。」と勧められたのです。いきなり、ボランティア団体を作ったと言われても、全くの素人でしたし、どんなことをどんな風にやればいいのか分からない状態でしたが、私も自分たちで何かできることがあるならと団体結成に向け動き出したのです。

団体の特徴

私たちの団体の活動は、3つの特徴があります。

- (1) 地元業者による 24 時間パトロール
 - (2) さまざまな防犯寸劇の実施
 - (3) 他の団体との協働した地域安全活動
- です。

では、それぞれの特徴についてこれからお話いたします。

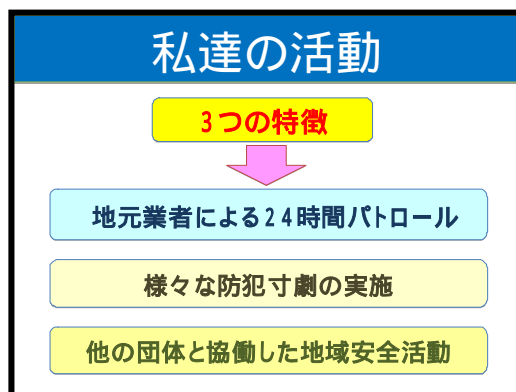
まずはじめに多種多様の職種・年齢で構成された地元業者による 24 時間パトロールです。

私たちは、団体を結成するにあたって自分たちが住んでいる地域のことを考えて見ました。その結果、合併する前の横手市は、人口約 4 万人の地方都市でしたが、秋田県南部を走る国道 13 号線と岩手県からの国道 107 号線が交差しているため「小都市のわりには犯罪の発生率が高い。」また地方都市に多くみられるように、「非常に高齢者が多い。」という特徴があることがわかりました。そして地域の安全のための活動は、犯罪を予防するためのパトロール活動、高齢者を対象とした巡回活動や安否確認を中心とすることにしました。

また犯罪の発生状況や地域状況に応じて、子どもの見守り活動や悪質商法の被害防止の活動も行なっていこうと考えたのです。

さて、活動するにしても人を集めなければなりません。幸い私たちの地域は古くから住んでいる人が多いため学校や町内会の住民のつながりが残ってありました。

しかし、当時ボランティアによる地域安全活動に関心が集まりつつあるとはいえ、まだまだ

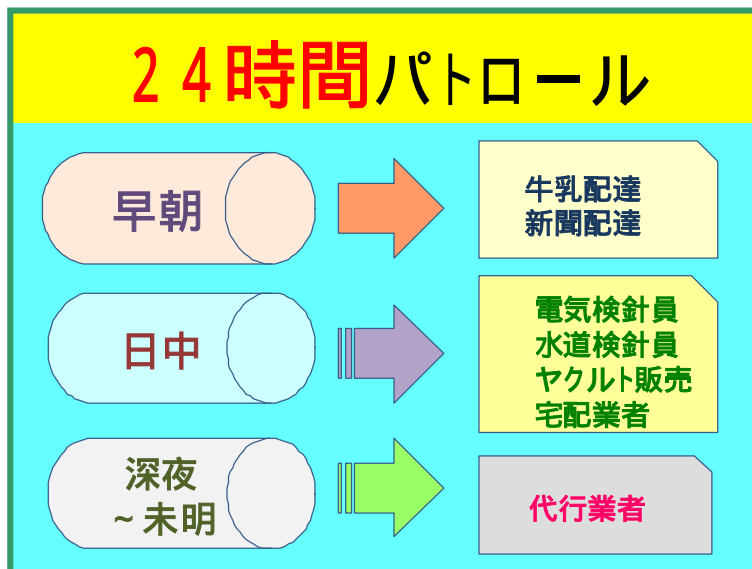


だ住民の関心は低いものでした。その結果思いついたのが、私と同じような外回りをする人たちでした。

私は毎日配達で、各家を回っておりますが、まだ住民同士のつながりが残っている地域なので、その家の状況についてある程度耳に入ってくる場合があります。だったら私と同じような職種の人たちが集まって、その人たちが地域の安全に対して少しでも意識を向けることができれば、それだけでも防犯に役に立つのではないかと考えたのです。

また、職種も車に乗って回って歩く人たちよりも、一軒一軒各家々を訪問する人たちの方がより住民に接しており、そうした職種の人に声をかけてみようということになったのです。そして、早朝は牛乳配達・新聞配達、日中の時間帯は電気・水道の検針員・宅配業者、深夜から早朝にかけては運転代行業の方々に目を付けました。

これなら 24 時間、四六時中、誰かが地域を見回することで犯罪の発生防止になり、高齢者の人たちの不安を少しでも解消できるのではないかと考えたのです。



各団体への呼びかけについては、警察の方からお力を拝借しました。小さな町といっても、知り合いの範囲は限られていますし、突然の勧誘は相手を驚かし、不信感を持たれるのではないかと思います。警察の方から各業者に連絡を入れていただき、協力依頼をお願いしました。また、公的な機関には警察の方から勧誘していただき

きました。その結果、牛乳販売店、新聞販売店、横手ヤクルト販売員、東北電力横手営業所の電気検針員、横手市役所水道課の水道検針員、宅配業者、運転代行業者の7業者 280 人の参加が決りました。

業種により参加者には偏りもありましたが、とりあえず活動することが大切だということに結成を急いだのです。

隊の名称につきましては、7業者で組織された団体であり、「7」という数字から、七色の虹をイメージし、光り輝く未来への架け橋となることを祈って「よこてレインボーパトロール隊」と命名しました。これらのパトロールに必要な防犯グッズの購入については、秋田県「安全・安心まちづくり活動支援助成金」制度を活用しました。この制度により私たちの団体は、平成16年、17年度の2年にわたって合計約40万円の助成金を受けています。

この支援金により、ジャンパー、帽子、ジャケット、腕章、マグネットシート等を購入しました。特に、車両に付けるマグネットシートについては、レインボーの名称にふさわしいようにと七色のレインボーカラーのシートを作成しております。

日頃の活動

日頃の活動では自転車、バイクを利用する隊員は腕章をつけ、車両を利用する隊員は車両にマグネットシートをつけ毎日の業務を行なっています。

この活動の利点は、ただ道路を回ってパトロールすることだけでなく、早朝から新聞配達員、牛乳配達員が各家庭の玄関先まで配達に行きます。日中は宅配業者やヤクルト販売員の方々が家々を訪問し、検針員はメーターを確認するために勝手口付近まで足を運びます。夜間は代行業者が不審者の警戒とともに、お客さんを玄関先まで送るなど、ほぼ一日中、地域のどこかで活動することができます。

私たちの活動は事件事故を目撃した場合の通報はもちろんですが、「独居世帯などで新聞が新聞受けにたまっていたり、牛乳が飲まれていなかったりした場合」や、「検針したり、配達しながら困っている人やおかしい人がいた時など『おかしいな?』と思った場合」は、見て見ぬ振りをせず、声を掛けたり、警察に連絡することを目的としています。また、仕事の途中であっても子どもの登下校時間帯は、通学路を通過して目的地に向かうこと、地域で「危険」だなどと思う場所を発見した際は警察等に連絡することなどを心がけています。



こうして24時間、いつでも誰かが地域のことを見守っているというパトロール隊が活動を開始いたしました。このような活動により、状差しに溜まったままの新聞を不審に思った配達員の通報により、一人暮らしのお年寄りが亡くなっているのを発見したこともありました。また、代行業者が、飲食店の看板を壊している酔っぱらいを発見して通報し、検挙に貢献した事案もありました。

活動継続の秘訣

でも、このような「ながらパトロール」は最初は勢いが良いのですが、長くなると活動が停滞し、そのうち自然消滅という事態にもなりかねません。新聞配達店では、配達員の入替が激しく、実際に回っている配達員に活動の趣旨が徹底していなかったり、長くなると最初は賛同してくれた人々も関心が薄れ、ただ腕章やシートをつけて日常の業務を行なっているという状態も見えてまいりました。また隊員は、様々な業種、様々な時間帯で働いている人々が集まっていることから一時期に一箇所に集まるような、総会・研修会を行なうことも困難でした。そこで、私たちは各業界から選ばれた役員が、「率先して活動を行い強力なリーダーシップを取ること。」「役員会等の結果や警察からの情報は携帯電話などを使ってみんなに知らせること。」が必要だと考えました。

このようなことはもちろん重要なことですが、それ以上に、あとでお話します劇団の活動や他の防犯団体と協働で行なった色々な活動がマスコミに取り上げられたり、表彰の対象となったことが、隊員の意識を継続して地域安全活動に向ける大きな要因となったのです。

多彩な防犯寸劇

これから、当隊の女性が主体になって行っております、広報啓発部隊「あっ!!晴れ劇団」についてお話しします。

私たち女性隊員は、元々は、旧横手市の東方に位置する旧増田の交通安全協会で活動しておりました。

増田町が横手市と合併することとなり、私たちも活動の場を広げたいと考えていたとき、平成 18 年 4 月、秋田県藤里町で小学生が殺害されるという驚きの事件が発生したのです。

それまでも他県で児童が殺害されるという痛ましい事件があり、気に掛けてはいたのですが、まさか身近なところでそのような事件は起こらないだろうというのが本当の気持ちでした。

それが本当に県内でも発生してしまったことは、とても衝撃的でした。

元々私たちは交通安全協会の支部で活動していましたので、子ども達に向けた交通安全寸劇や交通安全体操などを考案して行っていました。

事件をきっかけとして、もう少し活動の幅を広げて、交通安全だけでなく防犯活動もやってみたのですが、周りの反応は今ひとつでした。

地域の安全というのは、パトロールなどによる犯罪の未然防止や子どもや高齢者の安全対策だけでなく、交通事故防止、防災活動、環境美化など、あらゆる活動が一つになってはじめて成り立つものだと思います。

人によっては、私たちは防犯だから、私たちは交通安全だからというような考え方もする人もいます。

でも、そこに住んでいる地域の人たちから見ると本当に安全で住みよい街というのは、犯罪の発生もなく、子どもや高齢者が安心して暮らせ、また、交通事故で悲しむ人もいないそんな地域だと思います。ですから私たちは、防犯や交通という垣根を設けることなく、地域の問題やその時々状況に応じた寸劇や活動を通して犯罪防止や交通事故防止、子どもの見守り活動などを訴えていきたいと考えたのです。

こうした強い考えから、平成 19 年 4 月、女性隊員 10 名が主体となって、よこてレインボーセーフティ広報啓発部隊「あっ!!晴れ劇団」が発足したのです。

「あっ晴れ!!」は、レインボーの虹と同様に「あっ!!と驚くほど晴れた輝かしい太陽」をイメージし、レインボーと共に地域を明るく照らして、安全で安心なまちづくりに貢献し、地域との架け橋になろうとの思いから命名したものです。

私たちは当初、交通安全や子どもの犯



罪被害防止などの寸劇を行なっていましたが、その後、振り込め詐欺が大きな社会問題となり、今は、主に振り込め詐欺防止の寸劇を行っています。

おかげさまで、他の市町村からも公演の依頼がありました。昨年は県内で数々の公演を行い、秋田県の主催する「安心・安全まちづくりフォーラム」などでも公演させていただきました。今は子どもの犯罪被害防止、振り込め詐欺防止のほかにも15年連続で自殺率全国1位の、秋田県最大の悩みの種である自殺防止などの寸劇などにも取り組んでおります。

私たちの防犯寸劇は、「分かりやすく、親しみやすい」ことを心掛けています。秋田弁をまじえたり、振り込め詐欺の寸劇では最後に観客席に逃げ込んだ犯人をレインボーパトロール隊が捕まえるというように劇団員だけでなく隊員にも参加していただいております。このような公演は私たちの活動に大きな影響を与えてくれました。

それは、マスコミ等に取り上げられ、自分たちが思っている以上にその名前が知られるようになったことです。このことは、私たち「あっ！！晴れ隊」の励みとなったことはもちろんですが、レインボーパトロール隊の各隊員にも良い影響を与えたのではないかと思います。

他の団体との協働

私たちの活動で、もう一つ特徴的な点は、地域安全活動のためには、何でもやってみようという気持ちから、他の団体との協働パトロールや諸行事に積極的に取り組んでいる点です。

農作業中の事故防止や山菜取りの注意、自転車の施錠運動のほか、農産物パトロールも行なっています。私たちの町では、6月にはサクランボ、9月～10月にはぶどう、米、リンゴが収穫になります。この農産物を狙って収穫時期に盗難事件が発生していたことから、市町村や農協、生産農家、観光協会、警察などと協働してパトロールを実施しています。ですから私たちレインボーパトロール隊は、6月には「チェリーパトロール隊」、9月～10月には「グレープパトロール隊」とまさに虹のごとく変身して活動しており、「あっ！！晴れ隊」も車に乗り込んで、次々とうぐいす嬢に変身します。

パトロールでは農協や生産者、警察の方々と協働して各農園を回り、作業中の農家の人たちに対して、啓発のチラシを配り注意を呼びかけております。また夜間・早朝のパトロールを実施しており、不審者を発見した際の通報はもちろんですが、「見せるパトロール」を心掛けております。このほかにも警察や他の団体との協働したキャンペーンなどの取り組みも積極的に行なっています。

地域安全運動や、年末年始の警戒活動などはもちろんですが、2月にはかまくら祭り会場で少年保護育成員、暴力追放委員と一緒に「かまくら関所」



での活動を行っており、その時は「あっ！！晴れ隊員」が着物姿で警戒を促しております。

12月には飲食店組合、アパート防犯協会と一緒に飲食店街の風俗浄化運動などできる限りのイベントやキャンペーンに参加しております。

このような活動も新聞に取り上げられ、その記事に「レインボーパトロール隊」の名前が入っていることが、地域の人たちに私たちの活動を知っていただくというだけでなく、隊員の士気を高める一助にもなっていると思います。

今後も「子ども見守り隊」などの他のボランティア団体と積極的に交流を図り一緒に活動していきたいと考えております。

課題と今後の方針

このように話すと良いことづくめなのですが、実際は、活動の意識を継続させることは非常に困難です。

特に私たちの活動は、仕事しながらの、いわゆる「ながらパトロール」が主体です。

毎日の仕事の中で、四六時中、高齢者や子どもの安全のこと、地域安全のことを考えることは難しいことです。

こんな活動で効果があるのかという疑問もありました。

でも、私たちはこう考えることにしたのです。

四六時中、地域の安全のことを考えている必要はない。毎日の活動で、ちょっとおかしいなと感じたとき、「あれ？どうしたんだろうな？」と思ったとき、面倒がらずに声をかけること、警察に連絡することが私たちの活動の中で一番大切などではないかと思っています。そんなときに自分が見守り隊の一員であることを思い出して行動することが、私たちの活動で最も基本となることだと考えております。

日頃から腕章をつけたり、マグネットシートシートを車に貼ったり、寸劇やキャンペーンに参加するという事は、その意識付けになっております。

私たちの日頃の活動は、毎日決まった時間に児童の見守り活動をするとか、パトロールをするとか肩肘張ったものではありません。でも目には見えませんが、必ず地域の安全のために役立っていると思っています。

私たちは、毎日の仕事の中で地域安全活動を長く展開するために「ながらで、長く、気張らずに」をモットーにこれからも今まで以上に防犯活動にがんばっていく覚悟でございます。これでよくてレインボーパトロール隊の発表を終わります。

司会 高齢者の行方がわからないということが社会問題になっている中、このような活動は非常に貴重だと思っています。

何か質問がございますでしょうか？

質問 私どものほうでもパトロールをしています、どのように地域に協力を求めておられますか？それと「見せるパトロール」とはどのようなことでしょうか？

回答 パトロールというのは全員参加は難しいです。皆さんから希望を取って出席の人

数を確認します。どれかに参加いただきたいというのは初めから決めてあります。また2番目の「見せるパトロール」は、昼も夜もマグネットシートを貼付した車でパトロールすることで、警戒が強化されているのだなと思わせることだと思います。

質問 私は静岡から参りましたが、町内会・自治会の協力はありますか？

回答 P T A ・町内会とは強く連携しております。警察からの地域活動運動の一環で署員さんも参加いただいております。署の方から自分の担当の地域にも話をしてもらっています。